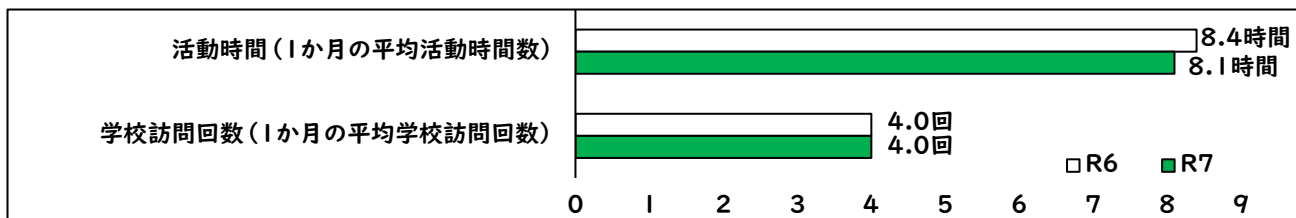


令和7年度「地域と共にある学校づくり」に関する実態調査結果

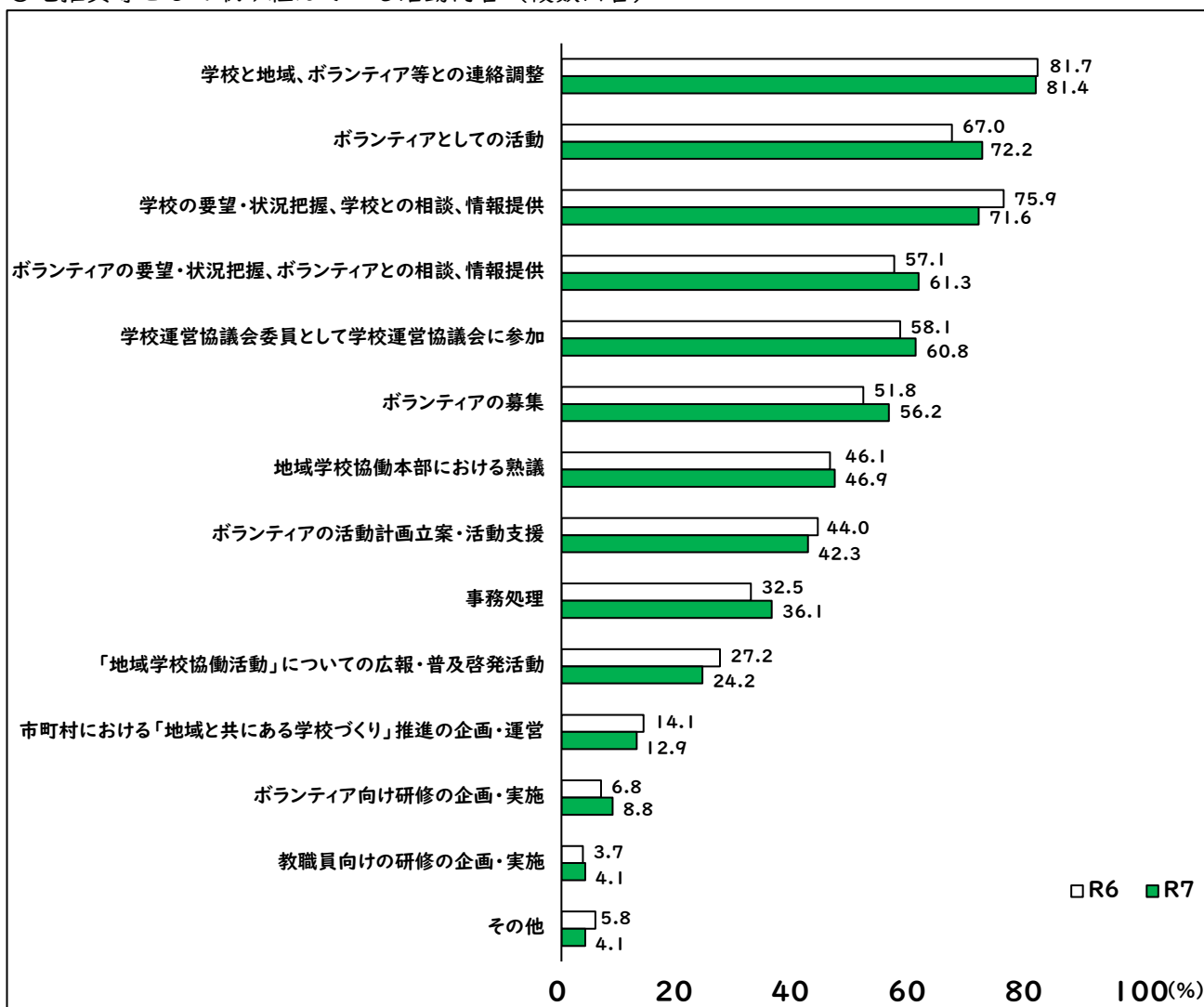
地域学校協働活動推進員等について

地域学校協働活動推進員等の現状について



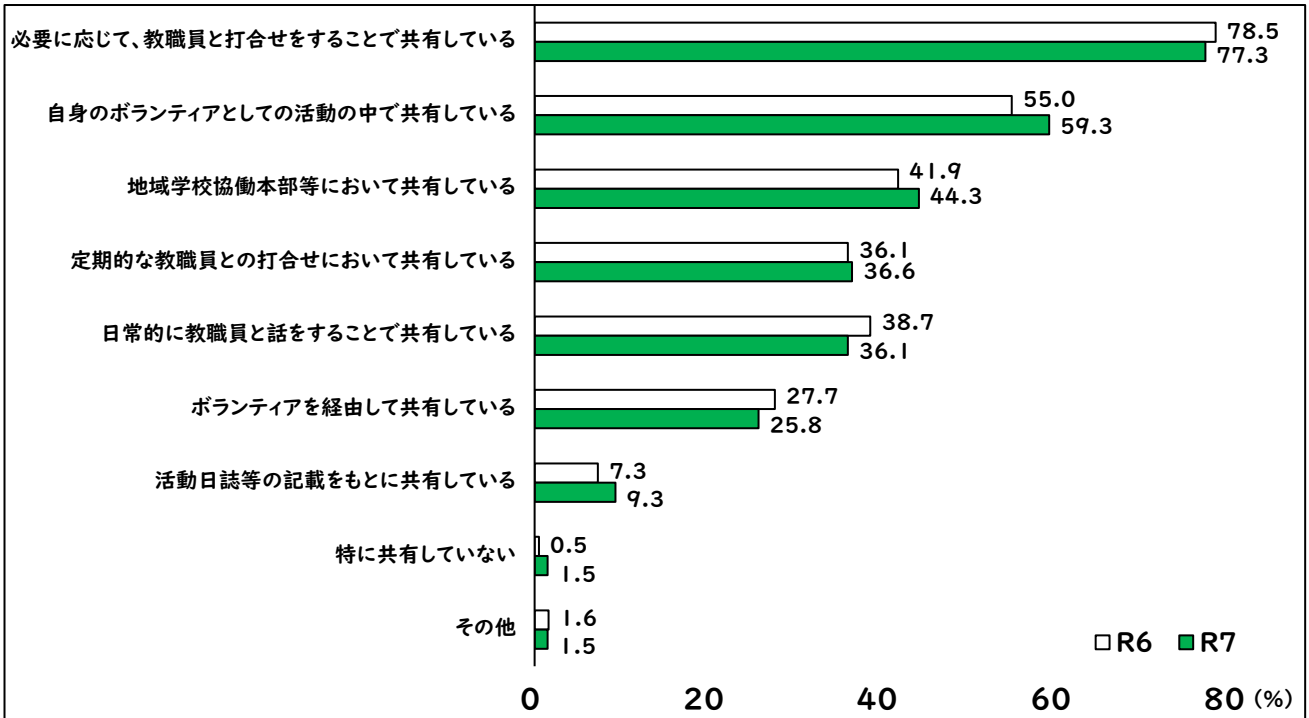
地域学校協働活動推進員等としての活動について

◎地推員等として取り組んでいる活動内容(複数回答)



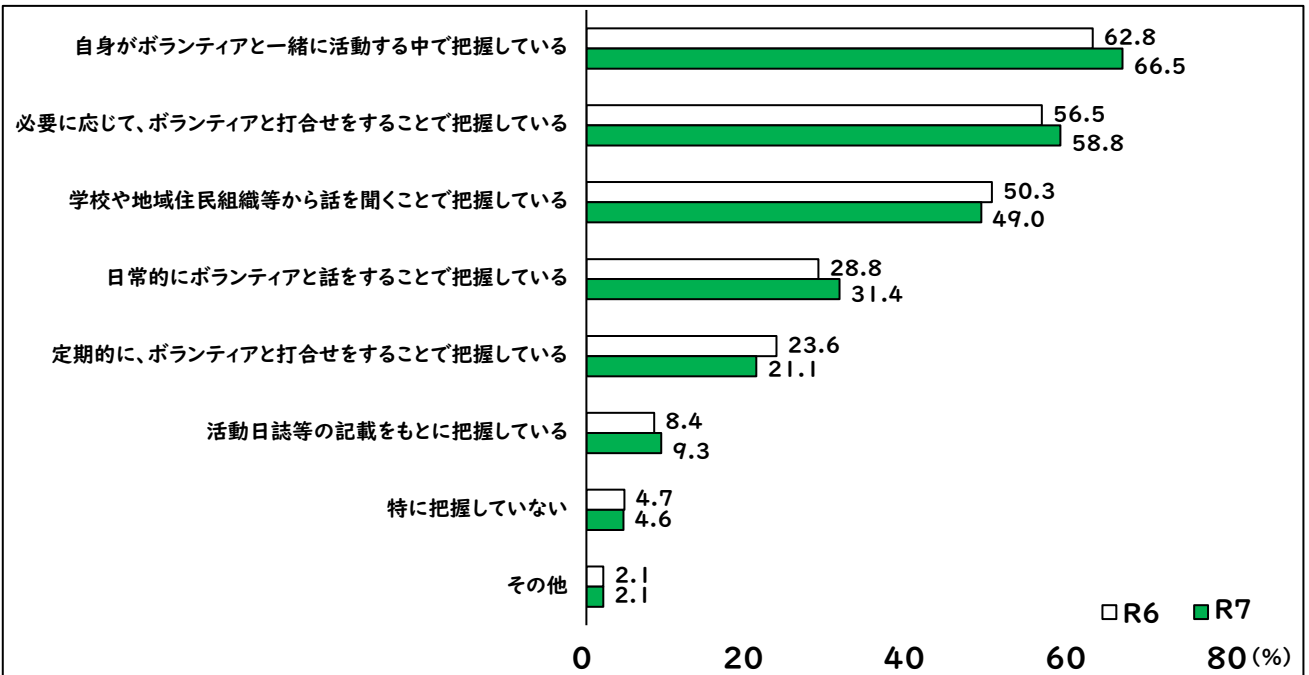
○地推員等として取り組んでいる活動内容は、「学校と地域、ボランティア等との連絡調整」、自身の「ボランティアとしての活動」、「学校の要望・状況把握、学校との相談、情報提供」など多岐にわたっています。また、地推員等の約6割が、学校運営協議会で設定された目標を地域学校協働活動に反映するために「学校運営協議会委員として学校運営協議会に参加」しています。

◎学校との情報共有の方法（複数回答）



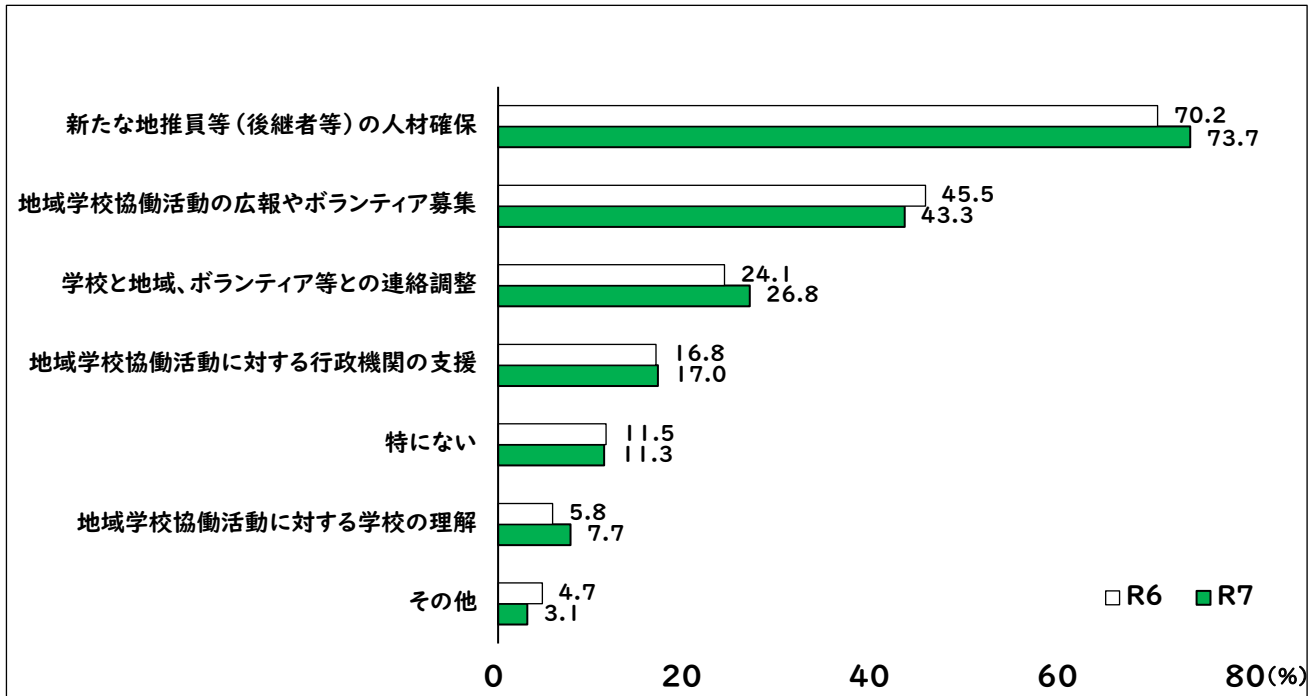
○「必要に応じて、教職員と打合せをすることで情報を共有している」の割合は、昨年度同様に最も高いですが、「自身のボランティアとしての活動の中で共有している」「地域学校協働本部において共有している」の割合が増加しています。

◎ボランティアの要望把握の方法（複数回答）



○「自身がボランティアと一緒に活動する中で把握している」、「必要に応じて、ボランティアと打合せをすることで把握している」の割合は、昨年度同様に高いですが、「日常的にボランティアと話をすることで把握している」の割合が増加しています。

◎地推員等として活動に取り組む上で、困難に感じていること（複数回答）



○「新たな地推員等（後継者等）の人材確保」、「地域学校協働活動の広報やボランティアの募集」について困難さを感じています。

◎ボランティア募集の際に行っている工夫について

- ・CANVAでチラシを作成して地域に貼ったり、学校メール配信システムで電子配信したりしています。
- ・Facebook、Instagramや新聞等に活動の様子を載せ、新聞については、1年に1回全戸に配布しています。
- ・マチコミメールやLINEグループで、連絡が取りやすいようにしています。
- ・LINEでグループを作り、そのQRコードをハガキで配布して、グループに加入してもらうことができました。このことによって、募集と応募が全員で共有でき、学校や事務局の手間を簡略化することができました。

その他（地域学校協働活動推進員等の意見）

- ・学校と地域のつなぎ役ですが、それだけにとどまらず、まずは今以上に先生方が教育に専念し、子どもたちと向き合う時間を確保できるような仕組みづくりが大切だと考えています。
- ・子どもたちを中心に、学校と地域が情報を共有し、支え合うことで、信頼関係が生まれ、より良い学びの環境が築かれることを願っています。
- ・「地域と共にある学校づくり」の取組で得られる効果について、教職員とボランティアで共有するための熟議を行い、推進していきたいと思っています。
- ・今後も、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、また学校教育活動が円滑に進むように学校や地域と連携しながら関わっていきたくです。

地域学校協働活動を推進するためには、地推員等の役割が重要です。学校と地域をつなぐ活動を引き続きお願いいたします。

- 地域学校協働活動が一層充実するよう、教職員・ボランティアと日常的に情報交換を行い、学校の教育目標や学校運営協議会で共有された目標を踏まえた活動の企画・調整を行っていくことが重要になります。
- 新たな地推員等やボランティアの確保・育成は、今後の活動継続にとって大きな課題です。地域の回覧板や学校からの一斉メール、SNS、QRコード付きチラシ、LINEなど、様々な手段を活用した広報・募集の工夫を、ぜひ引き続きお願いいたします。また、県主催の連絡会や研修会には、「地推員等になりうる方」も参加対象としているものがあります。一人でも多くの方に参加いただき、地推員等の役割への理解を深めることが、新たな担い手の発掘・育成の第一歩となります。
- 地推員等の皆様が、学校や地域住民組織、行政機関との橋渡し役として、要望や困りごとを丁寧に聞き取り、関係者間で情報を共有してくださることが、「安心・安全で豊かな学びの環境づくり」や「教員が子どもたちと向き合う時間の確保（働き方改革）」につながります。今後も、その重要な役割を、引き続き担っていただきますようお願いいたします。
- 子どもたちの成長を地域全体で支えるという「地域と共にある学校づくり」の趣旨を、教職員や地域住民、ボランティアと共有しながら、互いに認め合い・支え合う関係づくりを引き続き進めていただきますようお願いいたします。県教育委員会としては、連絡会や研修会等の実施を通して、県内の地推員等間の情報交換や研修を一層深められるよう、伴走支援を行ってまいります。